

ダラスのワーキング女子へエールを！

〜DJCWのマンズリーメッセージ〜

ダイバーシティ (人種)

やっと「コロナ」が落ち着いてきたかと思つたら、今度は人種差別的抗議デモが街で多発。何かと騒がしい日々ですね。最近のデモなどを見てみると、人種問題は深い根のあるものだということを改めて実感します。昨春秋の記事でもダイバーシティについてお話ししましたが、今回は人種という視点で書きたいと思います。

通常タブー化されがちな話題とはいえ、宗教・政治・そして人種。でも昨今の動向を見ると、人種についての風向きが変わってきた気がします。6月2日には、多数の企業がホームページやソーシャルメディアに真っ黒な背景のスクリーンと「ブラックアウトチューズデー#(ハッシュタグ)」を載せて、ネット上で無言の抗議をしました。一般の会社がここまではっきりと社会的な立場を発信することは今までなかったと思います。社会的意見を公に意思表示しても大丈夫、というか、むしろ何も言わない方が罪だ！みたいな風潮に変わってきているのかもかもしれませんね。

先日私の勤務する会社でも、「人種問題について語ろう」という趣旨のバーチャルイベントが実施されました。今までならありえないようなことです。ダラス事務所からの参加者は約70名。社員数が230人ほどなので、全体のほぼ1/3が出席したことになります。これって結構な出席率です。タイムリーなトピックだということもあり、やはり皆気になってるんだなと感じました。オープン・デイスカッション形式で、出席者が気軽に発言できるような、カジュアルなイベントでした。そこで紹介された話がとても印象的だったので、いくつかご紹介したいと思います。(便宜上、本記事では「白人・黒人」といった表記で人種表現をさせて頂きますこと、「ご容赦下さい」)

まず一人目、Aさん(黒人男性)の話です。彼は幼い頃からいつも両親に「他人には必要以上に礼儀正しく、逆らわずに行動しなさい」と教えられたそう

です。マナーがどうだというよりも、きちんと振舞わないと「怒っている要注意な黒人男性」と見なされてしまうからだそうです。いったん要注意人物的な目で見られてしまうと、最悪どうなるか…皆さんのお察しのとおりです。「両親の教えの理由が身の安全を守るため、それも命を守るためだ」という話を聞いて、何ともやるせない気分になりました。二人目、黒人女性Bさんの話も衝撃的でした。彼女はダラスから実家のオクラホマへ車で帰る時、Tシャツなどの普段着で帰ると父親からお説教だそうです。もし道中でパンクでもしたら、黒人というだけで助けてくれる人が減るんだぞ、だからきちんとした格好をしないさい、というのが彼の言い分だとのこと。それを聞いた白人男性の同僚は、もう2020年だというのに未だにそんな心配をしなさいといけないなんて、とシヨックを受けていました。この白人男性に限らず、他の白人の同僚達も、まさか黒人の方々が白常的にそんな心配をしながら行動していたなんて、そして身の安全のために小さい頃からそんな悲しい教えを受けていたなんて、と驚いていました。人種の話ってとても身近なのに、こんな機会でもなければ、お互い一生話さなかったかも知れない。改めて人種問題の根の深さを感じたと共に、やっとオープンに話し合える時がきてよかった、と思えた日でした。

会社以外でも人種に関するシヨッキングな出来事は日々起きています。私はサウスフェアCDという、低所得層に安価な住居を提供する非営利団体で、執行役員の一員としてボランティアをしているのですが、先日こちらのメンバーから人種にまつわる話を聞きました。現在のこの団体は、代表の黒人女性2人と白人男性数名という執行役員チームで運営されているのですが、ある日、土地開発に関する会議のために「デベロッパの人と協議をしたところ、このデベロッパは黒人女性達には目もくれず、始終白人男性の方だけを見て商談を進めようとしたそうです。団体の代表者は黒人女性達ですし、名刺も交換したので、誰がボスなのかは向こうも承知のはず。女性達は嫌な気分になるわ、白人男性も「自分は代表でもないので」と居心地の悪い思いをするわで、非常に不快なミーティングだった

たとのこと。結局このデベロッパとは取引をしないことに決めただけですが、後で話を聞くと、「こんなことは日常茶飯事のこと。なんだか悲しくなりますね。」

私の会社の話に戻りますが、先日ビッグサプライズなアナウンスがありました。アメリカ史での奴隷解放日である6月19日、Juneteenthの日を会社の祝日とするそうです。うちの会社は以前、「建築業界でLGBTQの人が働きやすい会社ナンバー1」として名前が挙がったこともあるので革新的な方なのかとは思ってましたが、さすが！よい意味でビックリさせられました。

アメリカではどうしても「白人VS黒人」という議論になりがちですが、私達黄色人種は色々な意味で中途半端なのかな、とも思ったりします。今まで日本人だからということでは差別を受けたことがあつたっけ？考えましたが、私の感性が鈍いのか、あまり身に覚えがありません。裏で何か言われているのかもしれないが、まあ知らぬが仏と言いたい。

さて、「ここまで人種差別の話をしてきましたが、声を大にして言いたいのは、全ての人が差別をするわけではないということです。今回の一連のデモのパレードを見ても、黒人だけでなく白人の方々がたくさんデモに参加して、差別の問題を訴えようとしています。そういう人達が今後もっと増えていくといいですね。そしてこれからは、人種差別の話タブー化して避けるのではなく、もっと気軽に話してもいい社会になっていくといいなと思います。黒人、白人、そして私達のような黄色人種の人達も、相手のことで知らないことは山ほどあるはず。知らないなら聞けばいいんです。もっと会話をすればいいんです。そして、心置きなくそんな会話ができる安全地帯がもっと増えていけばいいなと思います。相手を理解することはコミュニケーションの基本。これからのグローバルな社会では、差別は古い考えだ！ということ、だんだん消えていくことを祈ります。その実現のお手伝いをできるのは、私達一人一人の行動です。

プロフィール

DJCW(Dallas Japanese Career Women)
ダラス在住の働く日本人女性2人が2018年に立ち上げた会。「ダラスにて頑張っている日本人のキャリア女性を応援し、ネットワークの場を作ろう」という趣旨で、毎月イベントなどを通してネットワークの場を作っている。
メールアドレス: djcwomen@gmail.com
ウェブサイト: www.djcw.org